

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第 14-001 号			(非公表)
2	第 14-002 号	下京	はぎわらけ 萩原家	明治時代に建てられた住宅で、三間続きの広間を、廻り廊下と広い庭が囲み、灯籠、蹲踞、見晴らし石と植栽が配され美しく維持されている。床の間、仏壇のある和室と蔵を有し、歴史と重厚さを感じさせる建物である。
3	第 14-003 号	伏見	にしかわけ 西川家	主屋と納屋のある農家住宅である。主屋の1階の壁は鎧板と黒漆喰で仕上げられ、大戸が目を引き。2階は漆喰と焼き板で仕上がる。戦後に、伝統的な建て方で建てられた現代の建物でありながら、醍醐寺北地域の歴史・文化を将来に伝える建物である。
4	第 14-004 号	北	たかはした か こきゅうたく 高橋たか子旧宅	昭和 13 年（1938）に建築された数寄屋風の邸宅で、当時の意匠がそのまま保存されている。塩川文鱗らの襖絵や、苔に覆われた日本庭園があり、建築時の雰囲気を残している。小説家高橋たか子の実家で、学生時代及び高橋和巳と婚姻後を過ごし、多くの小説の構想が練られた。二人の自筆原稿や遺品が多数保存されている。
5	第 14-005 号	左京	たけだやくひん きょうとやくようしよくぶつ 武田薬品 京都薬用植物 えんてんじとう きゅうたなべてい 園展示棟 (旧田辺邸)	明治 41 年(1908)に甲南学園・初代理事長であった田辺貞吉が、建築家野口孫市の設計により神戸に建てた邸宅。阪神・淡路大震災で損壊し取り壊しが決定していたが、建築史学会などの努力により、平成 9 年（1997）に移築・再生保存された。専門家による調査を基に、建築当初の姿を再現して建築している。
6	第 14-006 号	中京	かわしまいいん 革島医院	昭和 11 年（1936）に外科医院として開院した住宅併設型の医院である。あめりか屋京都店設計施工の木造 2 階一部 3 階建て、今もなお変わらない姿で残されている。市内の中心部に現存する、医院建築の歴史を示すものとして非常に価値が高い建物である。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
7	第 14-007 号	東山	ちくじょうそう 竹情荘	東福寺の南に位置する、四条派の日本画家・平井樸仙の旧宅で、大正期から昭和初期の近代和風住宅の形態を有する。玄関、中廊下、洋室にかけては、壁・建具にまでナグリが用いられ、玄関廻りは格天井と寄木の床、座敷及び小間は形態の異なる床の間が設けられ、室ごとに数寄の要素を含む特徴付けがされている。
8	第 14-008 号	下京	きっさそわれ 喫茶ソワレ	昭和 23 年（1948）に開業した、フランス語で夜会・素敵な夜を意味する店名の喫茶店。洋画家佐々木良三、彫刻家池野禎春、国際染織美術館館長だった上村六郎らの尽力で建築された。内装には、「葡萄」や「向日葵」など池野の木彫り彫刻が施される。昭和の文化とともに当時の喫茶文化を今に伝える貴重な建物である。
9	第 14-009 号	下京	りょうりょしゅくいづやす 料理旅宿井筒安	天保 10 年（1839）の創業で、現在も伝統的な京町家の建物で旅館業を営んでいる。外観のみでなく 7 室の客室の内装にも伝統的な工法が取り入れられている。将来に渡り、京都の街の伝統的な景観の維持に寄与する建物である。
10	第 14-010 号	伏見	はやしけ 林家	街道に面して主屋、中庭を挟んだ奥に離れが建つ職住一体の町家で、大正 13 年（1924）の建築である。主屋 1 階は店舗として開放的な造り、2 階は伝統的な虫籠窓のある漆喰壁を有する。近年開発の進む街道沿いにおいて、醍醐寺門前町の歴史・文化を伝える貴重な建物である。